

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02610

研究課題名(和文) 教員養成分野におけるジェネリック・スキル育成のための教育的介入の検討

研究課題名(英文) Examination of educational intervention for developing generic skills in teacher training field

研究代表者

高橋 浩之 (Takahashi, Hiroyuki)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：20197172

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究者は教員養成課程の学生のジェネリック・スキルが教員採用試験の合否に、また、現職教員のジェネリック・スキルがその教師としてのやりがいに関わっていることなどを明らかにしてきた。本研究では、教育的介入により教員養成課程の学生のジェネリック・スキルの育成を試みた。まず、教員養成分野におけるジェネリック・スキルを育成する授業に関する情報を収集した。次に、それをもとに授業を開発し、評価を行いながらその改善を継続した。その結果、授業によるジェネリック・スキルの向上は見られたが、その向上幅は十分なレベルまで達しなかった。今後は、授業内容だけでなく授業時間数などの関連を検討する必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の教員養成において、過去において強調された特定の教科や教育関連法規に関する知識や技能だけでなく、いわゆる人間力などのように、より包括的な能力が強調されるようになってきている。このことは、学力に対する考え方が従来の知識重点主義から変わってきたことだけでなく、教員が働く学校現場が複雑化し、問題解決能力も含め教員に様々な能力が必要となったこととも関連している。ここで言う人間力はジェネリック・スキルに完全に対応するものではないが、教員に求められるジェネリック・スキルの育成を検討することは、やや曖昧な面を持つ人間力などという言葉で表される概念の一部を学術的な形で切り取ることに繋がると言えるであろう。

研究成果の概要(英文)：I have clarified that the generic skills of students in the teacher training course are related to the success or failure of the teacher recruitment examination, and that the generic skills of incumbent teachers are related to their motivation as teachers. In this study, I attempted to develop generic skills in teacher training students through educational intervention. First, I collected information on classes that foster generic skills in the field of teacher training. Next, I developed lessons based on it, and continued to improve them while conducting evaluations. As a result, the improvement of generic skills was seen through classes, but the extent of improvement did not reach a sufficient level. In the future, it will be necessary to examine the relationship between not only class content but also the number of class hours.

研究分野：健康教育学

キーワード：教員養成 ジェネリック・スキル 教員の資質・能力

1. 研究開始当初の背景

豊かな人間性や社会性、同僚とチームで対応する力などに代表される総合的な人間力が中央教育審議会の答申等においてこれからの教師に求められるものとして強調されている。これは、ある意味では、教科などの内容にかかわる知識や授業を運営する技能などだけではなく、課題発見力、発信力、傾聴力などに代表される、定型化できない現実の状況に対応するためのジェネリック・スキル (Generic Skills) が教師に求められていると解釈できる。

2. 研究の目的

本研究では、すでに得た自己管理スキルや社会的スキルなどと教師に求められる能力などとの関連に関する行動科学的な研究成果をもとに教員養成課程学生に対して介入研究を行い、それが教師としてのキャリアに与える効果を検討する。それにより、教員養成分野においてジェネリック・スキルを育成する教育方法、カリキュラム等を明らかにし、新たな教員養成の枠組みを提案することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 教員養成分野におけるジェネリック・スキルを育成する授業に関する情報の収集を行う。ジェネリック・スキルに関する資料はすでに数多く収集しているが、それらを育成する実践の理論や実践のあり方に関してはさらに情報を収集する必要がある。教員養成に関して先駆的な取り組みを行っている愛知教育大学や福井大学などの教員養成機関での実地調査を行うとともに、それらの教育機関において開発や実践を担当している研究者や教師と情報の交換を行う。

(2) 教員養成分野におけるジェネリック・スキルを育成する授業を開発する。すでに本学、学部においては、コア科目「心の健康と行動」(大学生活や卒業後の生活における心の健康と行動に関わるテーマに関して様々な課題を与えることにより自分自身の考えを深めさせる授業であり、自己管理スキルの育成などが期待できる)、教職科目「人間関係づくりの教材開発」(学級経営に役立つ人間関係作りの演習を理論と体験を往還させながら学び、人間関係づくりに役立つ演習を開発する実践的講座であり、社会的スキルの育成などが期待できる)などにおいて、ジェネリック・スキル育成に近い目的を持った授業が展開されている。

(3) 教職科目「人間関係づくりの教材開発」をフィールドに介入研究を行い、教員養成分野におけるジェネリック・スキルを育成する授業を評価する。評価の指標としては、自己管理スキル尺度、社会的スキル尺度 (KiSS-18) というジェネリック・スキル尺度、セルフエスティーム尺度 (ローゼンバウムの10項目) 教員志望度、教員適性度などである。第1回目と最終回に調査の時間を設け、受講者のうち「調査に協力し、教員採用試験の受験状況や結果などの利用を許可する」と回答した者に学生証番号を記入してもらい2回の調査結果を対応づけて分析した。介入は授業の修正・改善を行いながら毎年度行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で対面での授業が実施できなかったり、対象を大幅に縮小して実施せざるを得なかったりした年もあった。

4. 研究成果

(!) 授業の開発に関しては ジェネリック・スキルの中でも問題解決的に取り組むスキル(ベーシック認知的スキルと言え)と感情をコントロールするスキル(メタ認知的スキルと言え)を取り上げて開発を行った。以下、それぞれに関して述べる。

a 問題解決的に取り組むスキルを扱う授業

授業では、ジェネリック・スキルの概要を説明した上で、意義などを説明した上で演習を行った。意義に関しては、そのような力を持っている者ほど教員採用二次試験の合格率が高いこと、また、教員になった後には現職教員としてやりがいを感じる者が多いことなど、これまでの研究成果を踏まえ説明した。

次に「問題解決的なやり方についてのワークシート1」をもとに演習を行った。

この演習は、葛藤が起こる場面において、選択肢を多くあげ、それぞれの結果を予想した上で、結果が起こる可能性及びその結果が起こる可能性を吟味した上で自分の行動を選択するという意思決定スキルを育成するためのものである。意思決定スキルにも様々なものがあるが、ここでは社会心理学の期待価値モデルを適用し、自分の選択肢をその結果の可能性(期待)とその結果の価値(価値)の兼ね合い(積の大きさ)から判断させるという手法を用いている。

場面に 대해서는 以下のように設定した。

状況

ある授業を仲の良い友人とともに受講していますが、友人から代返(出席調査に対して、出席していない友人の代わりに返事をするなどして、友人が出席しているように工作すること)を頼まれました。その友人はこれまで欠席が多く、さらに欠席するとその授業の単位取得が難しくなり、卒業が危ぶまれる状況なのですが、就職活動の関係で今回はどうしても出席できないのだそうです。一方、その授業を担当している先生は注意深く厳格な先生であることがわかっています。

その場面に対して、グループワークを行い、「友人の頼みを聞いた場合に起こりうることをできるだけたくさん書き出してみましょう。」の課題をさせ、そこから、「友人の頼みを聞いた場合に起こりうる、良いこと、悪いことについて、下の図に整理してみましょう。」という課題に進み、「とても良いこと とても悪いこと」「必ず起こること まず起こらないこと」の二次元の図に整理させるという手順をとっている。

b 感情をコントロールするスキルを扱う授業

次時では「感情コントロールについてのワークシート」をもとに演習を行った。この演習は、「怒り」という感情をコントロールするためにメタ認知的スキルを適応するというものである。具体的には、「怒り」がわくような場面を示した上で、自分の感情に気づき、その感情は自分によって強くも弱くもできることに気づかせることによりスキルを育成するという手法をとっている。

場面に関しては以下のように設定した。

状況
あなたは大学の研究室で開く懇親会の幹事をする事になりました。
会場として選んだ飲食店から求められた締め切りにはまだ時間があるのですが、予約を確定してしまいたいと考えています。あまり幹事などやったことがないにもかかわらず、頼まれたから引き受けたのに、いろいろと進めようとする、みんな結構非協力的だと感じます。例えば、なかなか出欠をはっきりしてくれません。それでも、ほとんどの人は回答してくれたのですが、自分を幹事に推薦し、さらに懇親会場や日程にうるさく注文を出した貝木さんだけははっきりしません。貝木さんには個人宛にメールも出したのに返事がありません。彼のためだけに手間をとるのは割り切れない気持ちですが、人数をはっきりしないまま予約してしまうとキャンセル料の問題が発生したり貝木さんが文句を言ったりして後が面倒なことになりそうです。みんなやる気がないように見えるこの懇親会にそもそも意味があるのかとも考えてしまいます。
懇親会場の手配以外にもやらなくてはならないことがいろいろあるのに手につきません。

その場面に対して、グループワークを行い、「今、どんな気持ちになっていますか。上の状況には書いてないことを想像して考えても構いません。」という課題をさせた後、意識的に怒りを増幅させたり弱めたりという活動をさせるという手順をとっている。

(2) 授業は数回にわたって行ったかが、ここでは、2018年度「人間関係づくり演習」の結果に関して示す。

「調査に協力する」と答えた者は65名と多かったが(「調査に協力しない」と回答した者は2名のみ)、前後のどちらかしか回答がなかった者32名、回答が不適切だった者7名で、結果として分析対象者数は26名と極めて少なくなった。

教員志望については、ポジティブに変わった者もネガティブに変わった者もいて、全体としては大きく変わっていないという結果になった。

教員志望（前）と教員志望（後）のクロス表

		教員志望（後）				合計
		強い	やや強い	やや弱い	弱い	
教員志望 強い (前)	度数	9	2	0	0	11
	総和の %	34.6%	7.7%	0.0%	0.0%	42.3%
やや強い	度数	0	4	2	0	6
	総和の %	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%	23.1%
やや弱い	度数	0	2	4	1	7
	総和の %	0.0%	7.7%	15.4%	3.8%	26.9%
弱い	度数	0	0	1	1	2
	総和の %	0.0%	0.0%	3.8%	3.8%	7.7%
合計	度数	9	8	7	2	26
	総和の %	34.6%	30.8%	26.9%	7.7%	100.0%

教員適性（前）と教員適性（後）のクロス表

			教員適性（後）				合計
			向いてい る	やや向い ている	やや向い ていない	向いてい ない	
教員適性 （前）	向いてい る	度数	0	1	0	0	1
		総和の %	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	3.8%
	やや向い ている	度数	0	9	2	0	11
		総和の %	0.0%	34.6%	7.7%	0.0%	42.3%
	やや向い ていない	度数	0	3	7	1	11
		総和の %	0.0%	11.5%	26.9%	3.8%	42.3%
	向いてい ない	度数	0	0	1	2	3
		総和の %	0.0%	0.0%	3.8%	7.7%	11.5%
合計	度数	0	13	10	3	26	
	総和の %	0.0%	50.0%	38.5%	11.5%	100.0%	

ジェネリック・スキルに関しては、やや向上が見られるものの十分ではないという結果になった。

対応サンプルの統計量

		平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差
自己管理 スキル （前）	SMS	26.77	26	2.612	.512
	SMS （後）	27.04	26	2.749	.539
社会的 スキル	SS（前）	58.42	26	8.519	1.671
	SS（後）	59.88	26	9.171	1.799
自己効力 感	SE（前）	7.50	26	2.717	.533
	SE（後）	6.85	26	2.810	.551

対応サンプルの検定

		対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率（両 側）
		平均値	標準偏差	平均値の 標準誤差	差の 95% 信頼区間 下限	上限			
自己管理スキル	SMS前 - SMS後	-.269	2.426	.476	-1.249	.711	-.566	25	.576
社会的スキル	SS前 - SS後	-1.462	6.976	1.368	-4.279	1.356	-1.068	25	.296
自己効力感	SE前 - SE後	.654	2.171	.426	-.223	1.531	1.535	25	.137

最終年度まで教員養成分野におけるジェネリック・スキルを育成する授業に関する情報の収集を継続して進め、文献的には概ね満足できる水準に到達した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で海外での実地調査などが行えず、それ以外の領域に関してはやや不十分な状況として調査は終了した。

教員養成分野におけるジェネリック・スキルを育成する授業を開発に関しては、今後のモデルとなる活動案が開発できたと認識している。その結果に関しては、ジェネリック・スキルに関する向上は見られるものの十分なものではなかった。今後、より対象者の数を増やした介入研究が

必要である。

新型コロナウイルス感染症の流行によって研究の進行に不十分な点があったが、それを補うために、すでに明らかになった自己管理スキルや社会的スキルの教員のやりがいや教員採用試験の合否への影響を踏まえて、本職の本務である教員養成学部における教員養成においてアクションリサーチ的に研究を行い、成果を実際の授業の開発に活かした。今後はこのことに関して例数を増やして量的な分析を行うことが必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 高橋浩之	4. 巻 63
2. 論文標題 現在の保健教育の課題を整理する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校保健研究	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋浩之，保坂亨，重栖聡司，土田雄一，真田清貴	4. 巻 38
2. 論文標題 教員養成におけるジェネリック・スキルに関する検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教育大学協会年報	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------